

樹苗農協がコンテナ苗木等生産技術向上研修を開催

令和6年12月18日(水)、山口県樹苗生産農業協同組合（笠本俊也組合長）主催の「コンテナ苗木等生産技術向上研修」が、美祢市於福町上黒ヶ谷で開催されました。

この研修は、コンテナ苗の生産技術向上と更なる需要拡大を目的としており、当日は、美祢市やカルスト森林組合の職員など18名の造林関係者が参加しました。

始めに、県森林整備課の職員から「コンテナ苗を用いた主伐再造林一貫作業」の取組について説明し、コンテナ苗の有効活用について理解を求めました。

また、長門市でコンテナ苗を生産している高見清氏からは、スギコンテナ苗を1年で出荷できるようになったことの紹介やコンテナ苗の生産方法の多くのメリットがあること等について説明がなされ、効率的な苗木生産や品質の向上へ向けた取組状況を伺うことができました。

最後に、造林現場において、造林者である市や森林組合職員を対象に、専用器具（ダブル）を用い、ヒノキのコンテナ苗を植栽してもらう等、この苗木の持つ特性を体感してもらいました。

参加者からは、「専用器具を使えば植栽効率が上がりそうだ」という感想や「根鉢がしっかりしているので、植栽後の活着が安心だ」等の意見が聞かれ、コンテナ苗に対する理解を深めることができました。

県では、伐採と造林を同時・並行して行う主伐-再造林一貫作業などの低コスト再造林を進めており、この取組に不可欠なコンテナ苗木の需要拡大が今回の研修を通じてより一層進むことを期待しています。

【コンテナ苗とは】

- ・「マルチ(多)キャビティ(孔)コンテナ(容器)」と呼ばれる特殊な栽培容器で育成した根鉢付きの苗で、活着率が高く、年間を通じて植栽可能。
- ・根鉢が均一で小径であるため、大きな植穴が不用で、専用器具等を使用することで植え付け作業の能率が向上。
- ・生産者にとっても、小面積で多くの苗木を生産でき、専用培地を用いるため、土づくりや土壌消毒が不用で、立ち姿での作業が主体なため、労働負荷が軽減されるなどのメリット。

【エリートツリーとは】

- ・ 形質や成長に優れた樹木を交配・育成した集団の中から特に優れたものとして選ばれた樹木。



コンテナ苗の特徴を説明（高見氏）



専用器具を用い苗木を植栽する参加者